

「東アジアの人文知」主催

第8回国際フォーラム「越境する人文知」

2019年1月23日（水）

戸山キャンパス 33号館第10会議室

1月23日（水）午後2時45分から戸山キャンパス 33号館第10会議室にて、総合人文科学研究センター部門「東アジア人文知」主催の第8回国際フォーラム「越境する人文知」が開催された。

第八回目を迎えたこの国際フォーラムでは、3名の訪問学者・交換研究員の方々に本学の研究成果を発表して頂き、共に議論する学術交流を行った。今回は本部門代表者の千野拓政教授の開会挨拶から始まり、3名の研究者が順次発表を行った。発表者、コメンテーターは次の通りである。（敬称略）

1. 朱燕颐（华东师范大学博士生）＜14:50～15:30＞

「『大同報』文芸副刊と哈爾濱時期の蕭紅の創作」

司会兼コメンテーター：張宇博（文学研究科博士後期課程）

2. 孟昕（复旦大学博士生）＜15:30～16:30＞

「民国前期曲家知识群体视野下的昆剧存续之道—以 1912-1930 年报刊剧评中的昆剧中兴论为中心」

司会兼コメンテーター：岡崎由美

通訳：中村優花（早稲田大学文学学術院助手）

3. 王辉（复旦大学博士生）＜16:30-17:30＞

「明清以來曲學共同體之流變—以吳江沈、葉姻族與杭州陳氏家族為考察中心」

司会兼コメンテーター：岡崎由美

通訳：柴崎公美子（文学研究科博士後期課程）

各研究者の発表の後は質疑応答、意見交換が行われた。今回のフォーラムでは、民国時期の戯曲についての発表が多かった。そして、延べ15名の方々が来場しこのフォーラムの議

論に参加した。最後に、本学の鳥羽耕史教授の閉会挨拶を持ち、午後 5 時 35 分に終了した。
第 8 回フォーラムも多くの国の研究者による興味深い発表、議論が行われた。

(報告：洪 性珉)



〈当日のフォーラムの様子〉